

平成 20 年度中区区民意識調査結果の概要について



中区では、区政に対する区民の評価、ニーズ等を明らかにし、今後の区政における政策立案、事業化等に反映させていくため、区民意識調査を実施しました。

(前回平成 14 年度実施。)

平成 20 年度調査は、外国人を含む 20 歳以上の区民 2,600 人を対象に、中区の行政サービス全般(分野別)についての満足度及び要望、また、5つのテーマ(「温暖化対策」「障害者福祉」「地域とのかかわり」「横浜開港 150 周年」「インターネットの利用」)について調査しました。

その単純集計の結果の中から、特徴的な点についてまとめました。

詳細な集計や分析については、報告書をご覧ください。

調査の実施概要

調査地域： 中区全域

調査対象： 中区に居住する 20 歳以上の方 2,600 人(外国人含む)

抽出方法： 住民基本台帳からの無作為抽出、外国人登録原票からの無作為抽出

調査方法： 郵送によるアンケート調査

調査時期： 平成 20 年 7 月

回収結果： 1,233 票(回収率 47.4%)

平成 20 年度調査結果の概要

中区の行政サービス (満足度)	「日常の買い物の利便性」が1位、「生活マナーの向上」が最下位。
--------------------	---------------------------------

分野別の満足度については、「日常の買い物の利便性」がもっとも高く、次いで「バス・電車による移動の利便性」、「主要・幹線道路の整備・安全性」が高い結果となりました。

逆に「生活マナーの向上」(ごみ出し、犬の散歩、路上駐輪、歩行喫煙、ポイ捨てなど)がもっとも満足度が低く、次いで「自転車走りやすい道路の整備・安全性」、「市民菜園など農と親しめる施設の整備」の満足度が低い結果となりました。

中区の行政サービス (今後の重要度)	「病院・診療所や救急医療の充実」が1位、「市民菜園など農と親しめる施設の整備」が最下位。
-----------------------	--

今後の重要度については、「病院・診療所や救急医療の充実」がもっとも高く、次いで「地震や火災などの災害対策」、「防犯対策」が高い結果となりました。

逆に「市民菜園など農と親しめる施設の整備」がもっとも低く、次いで「市民活動・生涯学習のための支援・施設の整備や使いやすさ」、「スポーツ施設や屋外レクリエーション施設の整備や使いやすさ」は重要度が低い結果となりました。

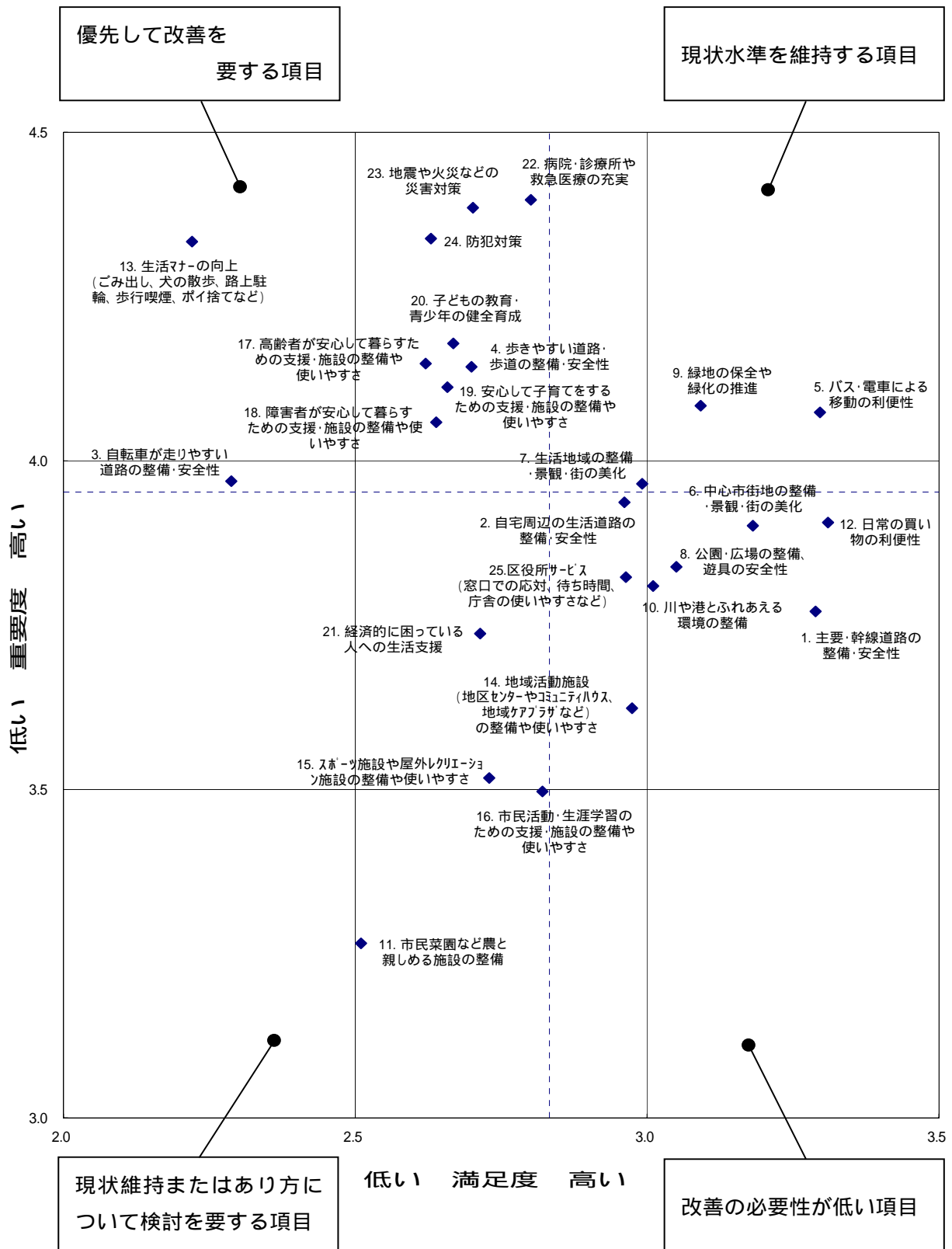
参 考:

満足度と重要度を掛け合わせた散布図を見ると、「生活マナーの向上」「防犯対策」「地震や火災などの災害対策」「自転車走りやすい道路の整備・安全性」「病院・診療所や救急医療の充実」「高齢者が安心して暮らすための支援・施設の整備や使いやすさ」等が満足度が低く、重要度が高い項目であることがわかります。(散布図参照)

温暖化対策について	<ul style="list-style-type: none"> ・約6～7割が温暖化対策に既に取り組む。 ・自転車は、約6割が利用していないが、約2割は日常的に利用。
-----------	--

温暖化対策への取組状況では、エコライフの実践、省エネ行動、公共交通機関等の利用、G30の推進によるごみ削減について、約6～7割が既に取り組んでいました。

「緑のカーテン」づくりについては、既に取り組んでいるのは約1割ですが、約5割が「今後取り組みたい/取り組める」としており、その中でも性別では女性、年齢では30～40歳代で割合が高い傾向でした。



<p>障害者福祉について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者支援については、「具体的活動はできないが、募金やグッズの購入などで力になりたい」が1位（全体の53.6%）。 ・ 既にボランティアを行っているのは40歳以上の女性が多く、今後ボランティアなどの活動を行いたい層としては20歳代の男性が多い傾向。
------------------	---

「ポレポレグッズ」は約41%の認知度があり、「知らなかったが、購入したい」が38.3%、次いで「知っているが、購入したことはない」(20.7%)、「知っているし、購入したことがある」(20.3%)となっています。

障害者に必要なサービスについては、「安心してすごせる居場所の確保」がもっとも多く24.2%、次いで「就労の場の確保」(16.3%)、「家族への支援」(12.9%)という結果でした。

<p>地域とのかかわりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とのかかわりについて、「地域活動への参加は難しいが地域のことをもっと知りたい」が1位（全体の45.5%）。 ・ 今後、地域の課題を解決するための活動に参加していきたい層としては、60歳代の男性で高い傾向がある。
---------------------	--

地性別、年齢、世帯構成、居住地、居住年数別のいずれで見ても、「地域活動への参加は難しいが地域のことをもっと知りたい」という層が最も多い傾向があります。

地域の課題を解決するための活動に参加していきたい層としては、性別では男性、年齢では60歳代、世帯構成では3世代(子ども15才未満を含む)、居住年数では30年以上、自由時間では3～5時間未満で割合が高い傾向にあります。

<p>横浜開港150周年について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区が行うべき150周年記念事業は、記念植樹・花壇製作等の緑化活動が1位（51.8%）。 ・ 区都心部に必要な来訪者サービスは、案内標示の充実、観光案内所の設置が1位（48.5%）。
----------------------	---

区が行うべき150周年記念事業は「記念植樹・花壇製作等の緑化活動」(51.8%)、「記念コンサートなど、イベントの開催」(35.8%)、「区の木の設定」(12.1%)となっています。

必要な来訪者サービスは「案内板や誘導標示などの案内標示の充実、観光案内所の設置」(48.5%)、「公共トイレの充実」(47.4%)、「電車やバスなどの交通機関網・便数などの充実」(43.0%)となっています。

<p>インターネットの利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約6割がインターネットを利用。 ・ 中区、横浜市ホームページ認知度は74.6%。
-----------------------	---

インターネットの利用媒体については、年齢別の特徴として、20歳代ではパソコンと携帯での利用、30～50歳代ではパソコンでの利用、60歳以上では利用していないの割合が高い傾向です。

中区や市のホームページは「知っているが、必要があるときに見る程度」という層が1位(71.5%)であり、次いで「知らないが、今後は見てみたい」(19.7%)、「知らないし、今後も見るともりはない」(5.2%)となっています。